

# 地域の6次産業を育てる!

第3回

北洋銀行

「地元産ぶどうのワイナリープロジェクト」の取組み

## 顧客をつかむ集客術を提案し 資金計画をブラッシュアップ

### 生産者の立場に立った経営アドバイスに注力

「日 本の食糧基地」として、野菜、米、果物、乳製品、畜産、漁業とあらゆる第1次生産品を全国に供給している北海道。基幹産業である農業・漁業は生産量・生産額ともに全国第1位を誇り、6次産業化を行うポテンシャルはとても高いといえよう。今回ご紹介するのは、農林漁業

成長産業化支援機構（以下「支援機構」）の出資合意案件であり、北洋6次産業化応援ファンド投資事業有限責任組合（以下「北洋6次産業化応援ファンド」）が出資・経営支援を行う「地元産ぶどうのワイナリープロジェクト」。昨年9月、支援機構から出資合意を受けた第1陣案件の一つだ。

北洋銀行では、食の分野や観光事業、ものづくり企業など、北海道の成長分野や地域産業を支援するため、平成21年6月に専門部署である「地域産業支援部」を設置。特に食の分野においては、現在のように「6次産業化」という言葉が叫ばれる以前から先駆けて

北海道の基幹産業である農業や食品産業において、1次産業である農業と2次産業である食品加工業のマッチングや、それを外食・流通業の3次産業につなげる食品相談会を開くなど、商流の川上（1次産業）から川下（3次産業）まで一貫した支援活動にいち早く注力してきた。

相談案件が増加し、より専門的なアドバイスが求められるようになった現在では、部内を①フードビジネス推進室、②観光振興室、③ものづくり・新事業推進室、④

青函産業振興室の四つに細分化し、各分野に特化して支援活動を行っている。

#### 付加価値率が全国最低のレベルにある北海道

地域事業者の6次産業化支援に注力するフードビジネス推進室では、生産者に対してA B Lや知的財産権担保融資など多様な資金供給方法を全国に先駆けて実施。食品加工業者に対しては、百貨店バイヤーや料理研究家等からのアドバイスで商品力を強化する「食のプロダクト・デザイン」事業を展開するなど、他府県に先んじて高いレベルの支援を行ってきた。

このような中で、フードビジネス推進室の郷雄司室長は、いま北海道の産業はその根底を揺るがす大きな課題に直面していると語ってくれた。

「ご存じのとおり、北海道は農業産出額、漁業生産額ともに全国トップであり、これが『食糧基地』と言われる所以でしょう。しかし、農林水産業、および食品産業における付加価値率は、全国で最低レベルなのです。付加価値率は、原材料が商品となり実際に消費者の手に渡る間にどの程度付加価値を付与できたかを表す数値。つまり、北海道は1次生産した原材料から高付加価値な製商品を生

み出すことができていないのが現状です。これが続けば、北海道の産業は右肩下がりになるでしょう。また、1次生産者の高齢化、後継者問題による離農率も年々増加傾向にあり、北海道の産業構造をマイナスの方向に向ける要因となっています」

1次産品である原材料を付加価値の高い製商品として加工し、販売力の高い流通網に乗せる。そのためには、川上から川下までのバリューチェーンをつなぐ6次産業化を行うことが大きなポイントとなる。これが実現すれば、地域の新たな雇用創出にも結び付き、離農率の改善も夢ではない。そして、北洋銀行がその課題解決のために設立したのが、「北洋6次産業化応援ファンド」だ。



▶郷雄司・北洋銀行地域産業支援部  
フードビジネス推進室・室長



▶越田雄三・フードビジネス推進室  
管理役

北洋6次産業化応援ファンドは、北洋銀行と支援機構、そして公益財団法人北海道中小企業総合支援センターが共同で出資を行う。北海道の農林漁業者等と2次・3次産業の事業者をマッチングさせ、農林水産物の付加価値向上や地域資源活用による6次産業